

「転勤族波乱万丈」

橘 亨（会員 No 64）

平成 28 年 4 月 9 日、平成 28 年度 神奈川放友会総会に私は初めて出席しました。

そこには見覚えのあるかっこ良かった先輩諸氏達が、いつの間にか白髪の初老の姿・・・、かく言う私も薄い髪の毛で頭皮を隠すのがやっと・・・、時の経つ早さを感じつつも、新参者である私を放友会の皆様は暖かく迎えて頂きとても感激しました。

で、せっかくなので歓迎するから何か書け！・・・と？という事で恥ずかしながら私生活を暴露する事となりました。

振り返れば・・・、現役時代、私が勤務する関東労災病院は川崎市にあり、放射線技師会は都内が近い事もあり、ほぼ全員が東京支部に加入していました。しかし神奈川県民であることから川崎技師会にも参加し、私は神奈川放友会にも当時から参加（名前だけ？）させて頂いておりました。



関東労災病院

労災病院は元厚生労働省の特殊法人でしたが、労働者健康福祉機構（現 労働者健康安全機構）に変わり、全国に 34 か所あります。時は西暦 2000 年、世の中どこもかしこもコンピュータ 2000 年問題対策に追われ、やっと落ち着いた 3 月、新潟県にある燕労災病院へ私に転勤の辞令が・・・この病院から放射線技師第一号の転勤者となってしまう、神奈川県民から新潟県民となりました。

病院事務職（役職）の転勤は毎年あり、全国にある労災病院を事務職は転々と回っています。



燕 労災病

大企業も転勤は当たり前。私はなぜか以前より転勤族にある種の憧れを感じていました。放射線技師での転勤などあり得ないと思っていたからかも知れません。しかし辞令を貰ったからには移動しないとイケません。家族同伴の転勤は子供の学校などもあり無理なので、単身赴任を選択するしかありませんでした。

毎日の食事や掃除・洗濯は大変かも知れないが、子供たちにとって、また家内にとってもうるさい亭主が暫らくいないというのは嬉しい事かも知れないと…自分自身でそう納得し、またほかの労災病院がどうなのか非常に興味もあつたので行く事にしました。

さて、新赴任地にいざ転勤してみても当然誰一人として知る人のいない病院だが、社宅の一階に引っ越しの作業をしていると、何やら若い女性が声をかけて来ました。「ある程度片付いたら四階に来て下さい、師長さんからの伝言です。」??…と。で、取り敢えず行ってみると、横浜労災病院から二年前に転勤されてきた師長さんと、その病棟の看護師さん達が宴会をしていました。「ようこそ新潟へ」と言って乾杯の祝福を受けました。これにはとても驚き、感激しました。これから見知らぬ土地で見知らぬ人達と仕事する事、ましてや技師長職も初めて…不安がないと言えば嘘になる…しかし、そんな不安も皆さんの暖かい歓迎と笑顔に一気に吹き飛びました。

燕労災病院の放射線科では、スタッフがなんとほぼ全員同じ学校卒（短大）？と言う事もあり、チームワーク抜群ではあったのだが、既成枠が出来ていてその中に入り込むのが難しかった。これもカルチャーショックの一つ…？しかし、これも時間の問題で、年月経過と共に理解し合う事が出来楽しく仕事できました。



新潟の銘酒と新鮮な魚介類

新潟と言えば、美味しいお米・・・有名な「コシヒカリ」、病院の職員食堂のご飯までもコシヒカリ。お魚は、寺泊港からその日水揚げされた新鮮な魚介類。日本酒は「越乃寒梅」「久保田」「八海山」…と数えきれない程の銘酒が並びます。温泉もしかり。近くに沢山温泉があり、冬はスキー場も近く、仕事を終えてからナイタースキーに繰り出す。転勤族にのみ与えられた特権！これを活用しない手はなかりと、休日は温泉めぐりにと特権はフルに活用させて頂きました。

しかし、仕事にもようやく慣れた 2000 年 10 月 25 日、父危篤の電話を受け、急ぎ故郷京都に向かうも時すでに

遅く、冷たくなった父との再会には涙が止まりませんでした……。転勤族の弱みを知る事となりました。

新潟での赴任生活もいつの間にかあつと言う間に4年の歳月が過ぎ、そろそろ異動があるかも知れないと思っていた2004年3月。今度は宮城県仙台市の東北労災病院に行けとの辞令……夕日が綺麗な日本海側から、眩い朝日の太平洋側へなんと本州横断の移動となりました。



東北労災病院

今度は宮城県民・技師会も宮城県技師会に転籍。東北労災病院では、定年退職された前任の技師長さんが、体調が悪いとは聞いていましたが、私への引き継ぎが終わってほっとされたのか仙台着任からわずか一週間後に亡くなりました。私の最初の大仕事は、悲しいかな彼を天国に送る葬儀委員長を務める事でした……。

着任間もなく、まだスタッフの名前もわからないままスタートした仙台ですが、この事でかえってスタッフの皆さんと大きな絆が出来たと思います。この病院はPACSがいち早く導入され、労災病院の中の基幹病院の一つでありモデル病院となっていました。私自身大いに勉強させて頂きました。

仕事にも慣れ勤務終了後には近くのスポーツジムに通っていましたが、ある日運動を終え、ロッカーに戻ると至急病院の職場に戻るようにと留守電に伝言が入っていました。急いで職場に戻ると、スタッフや多くの事務職員達が水浸しの床に溢れた水をくみ上げているではありませんか！？ 一体何が？…

この日午後、ある装置の修理に来ていた業者が、清掃のため普段使用していない暗室の水道を使い使用後確実に止水しなかったために水が溢れだし、徐々に床下の配線ピットに溜り、それがやがて床上にまで溢れ出たようでした。幸い装置や、漏電事故は免れたが、汲み上げ作業は翌朝まで続きました。



水が溢れだし徐々に床下の配線ピットに溜る

杜の都と言われる仙台は、転勤族には大人気の街で、地下鉄もありかなり都会の趣があるのだが、定禅寺通り

や青葉通りには緑が多く、七夕まつり、青葉祭り、定禅寺JAZZフェスティバル、光のページェントなどイベントも盛りだくさん……勿論、秋保温泉、作並温泉とすぐ近くに有名な温泉があり、オフでもまた快適な生活を楽しませて頂きました。



仙台七夕



光のページェント

仙台に来て二年、定年まであと二年……このまま仙台で定年を迎えたいなあ～と思っていた矢先、また来ました辞令が……ええっ～！

あと二年、今度はどこへ行けと言うの！？ 赴任先は古巣、関東労災病院でした。良かった～！！ 最後は元に戻して頂き安堵の息をつきました。

転勤してみて感じた事……まず、他の職場での体験で、システム、体制、業務内容、経営方針などの違いを知る事が出来き、新しい発見があります。また新しい人間関係の構築が出来るのも重要な項目。転勤で得た素晴らしいノウハウを新しい職場でその職場に合った方法を紹介出来ます。

反面、既成のシステムや体制に新しい考えを取り入れるのにやや抵抗感があったり、改革に時間がかかる事があります。

仕事以外では、その地方の郷土、情緒、風物詩が体験できる楽しみがあります。嬉しい事に定年退職した後も、元スタッフ達との交流があり、いまだに時々結婚式に招待されたりする事があります。まだ覚えてくれているのだなあと感激します。

是非、皆様にも転勤をお勧めいたします……が、もうこの歳では有り得ませんね。

以上、私のおそまつな転勤ドタバタ体験記で失礼しました。